

ひとかべ 人首小学校

児童数 25人
所在地 江刺米里字荒田85-1 ☎ 2061



人首小学校は、今年創立145周年を迎えました。人首は、本市の北東部に位置し、かつては沿岸部と内陸部を結ぶ要衝の地であり、先端の文物が導入され、繁栄を誇っていました。史跡、街並みにその面影が今も残されています。

童話作家の宮沢賢治も当地を2度訪れ、「人首町」という詩を残しています。また昭和29年に、当時童話作家として活躍していた小川未明の直筆による詩碑が建立されています。その詩「いかなる烈風も 若木を折る力なし 伸びれ子供等よ」は、本校の校訓のように語り継がれてきています。

本年度は、①「心のこもったあいさつ」、②「学校での読書と家庭読書」、③「地域から愛される学校」をスローガンにさまざまな取り組みをしています。地域とのつながりも強く、総合的な学習や生活科などでは、ゲストティーチャーとして、多くの方々に来校いただいたり、児童が訪ねたりするなど、地域に支えられながら教育活動が進められています。

10月20日に行われた創立145周年記念学習発表会では、オープニングセレモニーとして5・6年生による「兄和田念仏剣舞」の演技から始まり、地域の同窓生有志の皆さんによる「人首尋常高等小学校校歌」の合唱も披露していただき、地域の皆さんと共に作り上げた学習発表会となりました。



5・6年生による兄和田念仏剣舞

一人一人が輝いた運動会

5月26日、晴天のもと、大運動会が行われました。その中でも、全校児童と保護者が一緒になって行った大玉ころがしは、笑顔があふれ、走る人も応援する人もみんな一緒になって白熱しました。



マラソントイム

中休みは、全校で200メートルトラックを学年の違う友達と競って走っています。全校マラソントイムが終わっても、先輩に負けじと黙々と走っている児童もいます。その成果もあり、市内陸上記録会では、女子80メートルハードルでの1位をはじめとして、多数入賞することができました。



学校通信

大学生との交流会

8月22日、埼玉大学有機農業研究会の学生・先生方と本校児童との交流会を行いました。昨年8月に本校ボランティアであり宮沢賢治研究家の佐伯研二さんの案内で、埼玉大学の本校昇名誉教授と一緒に同大学学生8人が本校を訪れたことが始まりです。交流会では、学生の皆さんが宮沢賢治作品「人首町」の朗読、原体剣舞、紙芝居「のぼら」（小川未明作）などの発表をしてくれました。大学生の心のこもった発表を見た後は、一緒になって「お米ありがと音頭」を踊ったり、たてわりグループに分かれて「昔遊び」で楽しんだりしながら楽しいひとときを過ごしました。

約2時間の楽しい交流会は、あっという間に過ぎ、感謝の握手で終わりとなりました。子どもたちにとっては、もっともっと一緒に遊びたかったという気持ちが強かったに違いありません。



平成最後の夏の思い出ができました

いいところ、知っとこ おうしゅう

地区センター単位で
各地区を紹介します



しらやま 白山地区

拠点 白山地区センター
(前沢白山字古宿37番地3)
☎ 2938

白山地区は地区名に「山」が付きますが、実際には平坦な土地で山はなく、北上川に接し胆沢扇状地の東端に位置しています。北は真城地区と姉妹地区に、西は古城地区に、南は前沢地区に、東は生母地区に接しています。明治22年、町村制により発足した白山村が現在の白山地区にあたり、人口約1500人、世帯数約430戸、面積6.46平方キロメートルの小さな地区です。度重なる北上川の氾濫があり、悩まされながらも受けた恩恵は計り知れず、肥沃な土地に恵まれ、縄文時代および律令制の初期の遺跡・遺構が無数に出土する

昔からの純農村地帯です。白山地区振興会は、平成16年7月に発足。特徴は専門部会で、地区内で活動していた6つの組織を内部の専門部会とし、名称は従前のとおりとしつつ、それぞれが会計を持ちさまざまな事業・行事を主体的に実施しています。また、運動会などの地区全体の活動は実行委員会を組織し、地区内組織の連携を図り活動しています。主な事業は、大運動会、敬老会、収穫祭、新年交賀会、認知症SOS・防災合同研修、子ども百姓踊り、放課後子ども教室、除雪応援隊など、各種事業を展開しています。



平成26年3月に閉校となった白山小学校が取り組んできた「百姓踊り」。残していきたくない思いから振興会が「白山子ども百姓踊り」として継承しました。この踊りは、水沢農業高校民舞同好会で踊っていたものを、先生が児童用にアレンジし、踊り継がれてきたものです。昔の農作業の様子を伝え、収穫に感謝して踊ることを心掛けています。地元の敬老会、収穫祭と前沢郷土芸能祭で披露され、ご覧になった皆さんにとっても喜んでいただいています。

専門部会合同開催の「社会福祉活動・教育振興運動」合同推進大会。地区民がこぞって力を合わせ、助け合いながら、福祉と教育を一体的に推進しています。子供会花壇の表彰や事例発表、時代に合わせた講話などを行っています。白山地区教育振興会は昭和41年結成で、県下でも早い活動開始です。



小学生を対象として、毎年夏休みの最初の土曜日に「白山地区親子夏まつり」を開催しています。今年で36回目を迎えますが、ここ数年は「流しそうめん」を行っており、屋外ではお父さんたちと竹を割るところから、調理室ではお母さんたちと麺をゆでるなど、一緒に準備をします。自分たちで準備した流しそうめんは、食べるのも流すのも楽しいようで、毎年多くの親子が参加しています。

白山のお宝 「四季耕作図絵馬」



白山神社（通称六日入白山神社〈ほんじん坊〉、宮司・華山和光さん）に奉納された板絵の絵馬で、本市の有形民俗文化財の指定を受けています。大きさは、縦89cm、横112cmで、地元の人が施主となって幕末の安政5年(1858年)に奉納したことが分かっています。

前沢の絵師の作と伝承されており、雲によって画面が上下に分割されています。上部には種もみ浸しから稲刈りまでの農作業風景、下部には脱穀から土蔵搬入までの収穫後の調整作業風景が描かれており、幕末の当地方における米作りの一連の作業風景を知ることができる貴重な資料です。

現在は、牛の博物館の歴史資料収蔵庫に保管されており、白山地区センターには、複製を掲示しています。